

平成 3 年 8 月 1 5 日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土資料室

(青梅市駒木町 1-684 Tel0428-23-6859)

小さな湿原の鳥

多摩川の上流部に位置し、山沿いの青梅市では、シジュウカラ、ホオジロ、メジロ等の「山野の鳥」を探すのには大変に恵まれた場所です。では、カモ、シギ、チドリ、サギの仲間等のいわゆる「水辺の鳥」を見ようとする、これは逆に不利な場所ということになります。これらの水辺の鳥達の多くは、その生活の中心を青梅では望むべくもない、広々とした河原や湿原、あるいは干潟等に置いているからです。

ところが、多摩川の河原は別として、市内を探してみると意外なところで水辺の鳥を見ることができます。丘陵地帯の山間にある「谷戸田」や谷戸田に人の手が加わらなくなった休耕田がその場所です。例えば、小曾木地区の、厚沢、小布市川沿い、日原堀等がそうです。これらの場所の水田や、湿性植物が侵入し芦原に覆われた休耕田は青梅の「小湿原」といってもよいでしょう。勿論、湿原とはいえ、規模が小さいので、そこで見られる水辺の鳥の種類や、個体数は多くはありません。季節にもよりますが気をつけてみると、ゴイサギ、コサギ、カルガモ、クイナ、ヒクイナ、イカルチドリ、タシギ、クサシギ、カワセミ、オオヨシキリ等の姿を見ることができます。雑木林を抜け出た早春の水田でチドリ（イカルチドリ）の姿を見たりすると、例えそれが珍しい鳥ではなくても、その場所の持つ環境の多様さに新鮮な驚きと親しみを感じます。

これら山間の水辺の鳥の中で、年間を通じ最もよく目につくには純白のコサギでしょうか。よくシラサギ（白鷺）といわれますが、シラサギにはダイサギ（大鷺）、チュウサギ（中鷺）、コサギ（小鷺）の3種類があり、コサギは其中で最も小型のものになります。ダイサギやチュウサギは山間部にはほとんど入ってきませんが、コサギはかなり山深いところでも姿を見かけます。最近では多摩川を遡り、奥多摩湖辺りでも姿を見ることがあります。すぐに解るコサギの特徴は、足先の色が黄色であるという点で、これが解れば例え飛んでいる場合でもそれと指すことができます。エサはカエルやザリガニや小魚。ですから、コサギの住み着いている水辺にはこれらの水性小動物をたくさんいるということになります。

山間の小湿原も最近ではゴミ捨て場にされたり、宅地化されたりとだんだん荒れてきています。鳥の数も確かに減っています。人間が維持してきた水田を維持する必要がなくなった当然の結果なのではないでしょうか。

(文責 櫻岡幸治)